

公同通信



2017年11月24日 255号(464号)

To tell the story 153

「われら公同青年隊」

今回初めて書かせていただきます。何について書こうかと、とても迷いましたが青年隊について少し書きたいと思います。メンバーは Y くん、K くんちと私のたった三人ですが、頑張っています。

Y(25歳)です。仕事の内容は幼稚園の園庭の整備をしたり、機械道具の手入れや行事ごとの手伝いなどです。

今まで青年隊に入ってこれらの仕事をやって良かったところは、皆から「ありがとう」って言われたり、何かしていてうまくいかなかったら、次はこうやってやったら仕事が早くできてきれいにできる

など皆で考えてそれがうまくいった時です。それが、一番やっていて良かったなーと感じるところです。これからもその事を大事にしながら続けて行こうと思います。青年隊が出来てからそんなに経っておらず、まだすることも少ないですが、とても良い体験をさせてもらっていると、実感しています。色々な時期にお手伝いをさせていただくので、とても季節感も感じます。特に今からの時期、薪ストーブなどを使っての色々なことなど、とても楽しみです。

時代にふり回されるのではない あの時 心を躍らせて生きた 後悔に 身をふるわせたこともある 笑い 泣き 歯ぎしりをした 今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、 自分の人生を語ってほしい、 自分の人生を語ってほしい、 自分の人生を語ってほしい 自分の人生を語ってほしい

K(19歳)です。僕は、卒園してすぐ に、「たのしい学習塾」で、小学1年生 から中学生ぐらいまで毎週土曜日に、教 会学校以外でも教会に通っていました。 小学4年生までは、昼3時~5時まで、 小学5年生からは、夕方5時から来て、 ひとまず遊び6時ごろにはみんなでご飯 も食べ、それから夜7時~9時まで、勉 強したりしていました。ここにくれば、 大学生のお兄さんたちがいて、とても楽 しかった思い出がたくさんあります。5 年生になれば、沖縄のキャンプにも参加 でき、何度も沖縄に行かせていただきま した。沖縄では満点の星空の下、寝転が ってみんなで過ごしたこと、またみんな で篠山に行ったこと、みんないい思い出 ばかりです。そうして、僕が大学1年生 になり、あの時のお兄さんの立場になり ました。青年隊として、教会学校の小学 生たちと遊び、幼稚園でのお手伝いをし、 楽しみながらこれからもやっていきたい と思っています。

T (20歳)です。私は、幼稚園を14年前に卒園してからもまだ関係を持ち幼稚園に来させていただいています。本当に自分でもびっくりしています。時間があれば幼稚園に行っています。自分でも分からないのですが、何故か幼稚園に来ると落ち着きます。別に病んでいるということでは無く、ここは居場所があり必ず仕事があり、本当に落ち着く場所なのです。自分でそう思っているだけかもしれませんが…。悩みなどがあった時でも

気軽に話すこともでき、時にはキャンプなどで大騒ぎしてみたり、自分を自然に出せるところだと思います。そんな場所は滅多にないと思います。言い方が悪いかもしれませんが幼稚園は私にとって逃げ場なのかもしれません。いえ、居場所だと思います。私は大学生ですが私の友達と遊ぶよりもこの幼稚園に行き、手伝いをし、みんなと遊びキャンプなど行くのがとても楽しいです。これからも時間がある限りお手伝いを行きたいと思います。

以上、青年隊のみんなでした。みんな 西宮公同教会、そして幼稚園が大好きで、 みんなの大切な居場所でもあります。大 好きな場所で、大好きなみんなとこれか らも過ごしていきたいです。

(T)



~ どろんこと太陽~2017 西宮公同幼稚園の子どもたち

園庭のギンナンが落ちてきたのはいつ 頃でしょうか。まだキンモクセイが咲い ていない時からだったように思います。 ギンナンの処理をするのは、臭い~のは 絶対!ですが、何も言わず洗ってくださった先生方がおられます。ギンナンの匂いは臭い!でもそれもこの季節ならではと感じるようになったのも公同幼稚園に勤務してからだと思います。臭い匂いからしばらくして、その後やっとキンモクセイが咲きだしてキンモクセイの良いを少し和らげてくれた時もありました。「みて~」と嬉しそうに拾うお友だちの手には双子のギンナンの実が。ぽっぽさん(3歳児)も黙々と拾ってくれたことも。

先日の公同まつりではそのギンナンが 販売されました。今年は、本当にたくさ ん落ちてきたギンナン。くさ~いという 声もありましたが、先生や実習生がゴム 手袋をしてゴシゴシ洗って、果肉を取っ たあとはプールで1日天日干しをして乾 かしてから~。今年落ちてきたギンナン を処理したその重さは、46.5kgと凄い量。 散歩へ行く時に、「イテッ!!」と声が。並 んでいると上からギンナンが落ちてきて 頭に当たったお友だち。台風が来た後の らったさんぽの部屋の前はギンナンだら けに。先生3~4人、年長さんのお友だち も拾うお手伝いをしてくれて何とかその 日の朝に拾いきることができました。水 を張っておかないと小虫が寄ってきて ~・・・水を張るのも忘れずに。

食べ方としては、私は、茶碗蒸しなどに 入っているギンナンが好きでした。ギン ナンについて調べてみると、ギンナンに 多く含まれるカリウムには、血中内のナ トリウムのバランスを整える効能が。ナ トリウムは塩分に含まれる成分で、高血 圧や動脈硬化の原因にもつながるそうで す。

食べ過ぎるとギンナン中毒に。1日10個までだそうです。ギンナンは料理の中でアクセントとなる名脇役。ギンナンは栄養価が高い食材。でんぷん、カロチン、ビタミンCなど。古くから薬としても活躍しているそうです。中国や日本でも、古くから民間療法で活躍しており、せきや痰、また夜尿症にも効くそうです。

ギンナンをこれほど身近に思ったこと はないくらい幼稚園で働くようになって から、木を見上げたくさん触れるように もなりました。幼い頃は、「触らないでお きなさい。手が臭くなるよ。」と声をかけ られたら、言われた通りに触らずにいた り、よけて歩いたりしていた時もありま した。そんな時から大人になってもずっ とギンナンは臭いもの、手もかぶれそう だし~という思い込みに縛られてきてい ました。でも、今クラスの目の前にある イチョウの木のおかげでそんな嫌な思い もなくなり、ギンナンを洗って干して~ 電子レンジでチン!としたらとってもお いしいものだという素敵な思いに変わり ました。

子どもたちは、「拾ってくれてありがとう」と声をかけてもらえます。子どもたちにとっても、きっとギンナンは大人になってからも良いもの♪おいしいもの♪という思いであり続けることと思います。とっても素敵なことですね。

(加藤 友里)

あんなこと こんなこと



2017年10月22日(日)16時~

森 元斎さん講演会

西宮公同教会 集会室

「アナキズム入門」(筑摩書房)の著者である森 元斎さんにアナキズムの歴史、人物について話していただきました。 「平等の精神に満ちている」「優しい心の持ち主たちだ」と語るアナキズムを自ら生きる森 元斎さん、とてもフレンドリーで楽しい方でした。



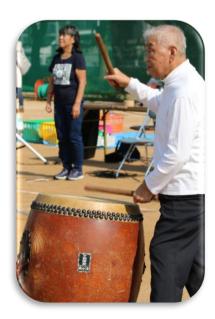


2017年11月3日(金、祝)9時~

運動会

能登運動場

すがすがしい秋晴れのもと、教会学校の子どもたちがリレーを楽しみに集まってきたり、みんなの笑顔溢れる一日でした。







2017年11月5日(日)12時~

津門川 川そうじ

川で集められたゴミは、カゴに入れられ、川の上で待っている人たちが紐で吊り上げてくださいます。そこで、ビニール袋に詰め替えられ橋のたもとに集めていきます。そこで一つ工夫がされていて、最初に袋に穴を空けておきます。水分も抜けるし、そのままだと70リットルも入る厚手のビニール袋は重くて持ち上げられません。こういった小さな工夫をしな

がら、毎回皆さんで大変な作業を進めてくださっています。





2017年11月11日(土)

公同まつり

秋のお楽しみの二つ目の「公同まつり」! 幼稚園の園庭を会場に、ゲームや出し物、数々の手作りの品、オリーブの塩漬け、園庭で採れたギンナンなどの販売がありました。





2017年11月18日(土)18時~

にしきたイルミネーション点灯式 西宮公同教会前 津門川沿い

公同幼稚園コーラス隊の歌声を聞き、にしきた 商店街よりの軽食のふるまいがあり、寒い中でした が今年も素敵なひと時を過ごしました。これから、 夕方5時~夜中1時まで、川に灯りが灯っていま す。1月下旬まで。



~あるがままに~

「順子先生の出会い日記」

西宮公同幼稚園の運動会は 11 月 3 日 (日曜日にあたると 4 日に)、これはこの日なら優先的に地域の大きな広場を使用させていただけるからです。1983 年からかってはちびっこ広場と呼ばれていたその能登の運動場を使わせていただいてきました。

そして 11 月の第二土曜日はこうどうまつり (これが先にすでに実施されていた)。運動会が月曜日でまつりがその週の土曜日というカレンダーの年はほんとによく働きますが、これまたそうなった時はそうなった時で何とかうまくいくものなのです。

運動会は子ども一人に祖父母に叔父叔母さんなどにとまあ一族総出なんてこともあったりして、広い場所ですが、全然広さを感じないほど。いや当然の広さということのような。

さて運動会のことをいろいろ考えていくのは8月から。1日に広場の申し込みがあります。そしてトイレ2基をお願いしておきます。そして「今年は」と頭の中でぼつぼつ意識し始めていきます。何か一つ「おっ!これはいいぞ」と思い立つとちょっとホッと。運動会、お天気で子どもがいて、そしておべんとうがあったら、それで十分。そう思って何十年。でもそこでやはりもう一味、「おもしろか

ったね」「たのしかったね」が必要。その年の「目玉」があると段々あとは外堀から埋めていく。ポスター制作担当やプログラムなどの雰囲気が決まっていく。おみやげも大事。あまり机上での話し合いはしないのですが、このあたりは顔を見合わせ詰めていくところ。ダンスの選曲も色を添えてくれます。妖怪体操だったり、英雄だったり、聞き慣れていて一瞬にして一緒に踊る世界に入れるもの。毎年何か、必ずそんな出会いが。

練習はしません。日々の散歩を楽しむ (行動)、先生の声を聞く(指示がわかる)、子どもとの相互の作用、インタープレイを大事にする、そして4月からの仲間としての意識が育ってきている。そう願っての特に9月に入ってからの時間。また9月10月はたっぷり遊ぶ、9月など可能な限りプールも楽しむ。

また何より、マイクを通してどのクラスの子どもたちにも声を届けることができる、そのことを大事に思ってきました。

さて暑かった 2017 年の夏、半ばごろに今年も知人のバレエの発表会がありました。同年齢の知人が主宰するバレエの教室。バレエを教えることもさることながら、たくさんの子どもたちを率いてのプログラム構成、幼児なりに踊り集団の一員として行動していく姿には感心してきたこれまで、指導力に感服、見てみたいとも。そして今年も鑑賞していてそしてふと思い立った!

うちの運動会、中心プログラムこれで いこう!バレエをではありません。子ど もたち全員でいろいろ分担する一つの時間をです。

過去のことになってしまい、どんなふうに頭の中で進んでいったのかは覚えていないのですが、発表会の直後に、流れを書いた文章を先生たちに手渡しました。第一案ができた時です。場所は畑、子どもたちの大好きな場所、門を出ると「はたけ?」と聞くあの畑が舞台。その畑を表現するのは年長、まずは緑の帽子。白の帽子には春のいちごの花を表してもらおう。

その畑を「おそるおそる」訪れるのは オレンジの帽子、3歳は帽子の色で何か を表現ではなく可愛い入園したばかりの そのはじめの一歩をそのままに。

街は4月、桜で彩られている、幼稚園の木々も芽吹き、桜の木は満開。花弁が舞い、それを追っかけ集める姿、大きい桜の木をみんなで手をつないで表現、さんぽぐみのピンクの帽子の子どもたちの出番。

畑ではぽっぽぐみは電車にもなり、またカエルになってぴょんぴょん跳ねる。 そして黄色い帽子の登場。公同の畑の象 徴の一つのひまわり、植えたのではなく、 昨年の種が眠っていて芽を出し、双葉に なりどんどん伸びていくその様子をらったぐみの子どもたちが。大きくなったひまわりは風に揺れてそしてみんなでウエーブを。

この日が全員でやる初めての日。少し物語を聞かせてもらっていた年長組も畑の風景をしっかりその位置を守りながらオレンジやピンクや黄色の帽子の子どもたちを見守っています。

白の帽子の子どもたちはいちごの畑に 白の花がいっぱいに見えてきてそしてだ んだんと青い実が真っ赤な色にのところ で帽子を裏返しにすると赤い布がつけら れていて、いちごを表現。ここにもある よとばかりに頭を差し出すようにして幼 い子どもたちを誘っていた春の畑のいち ごたち。そこから季節が動き、夏を過ご し、秋になってさつまいもを掘るころ、 またまた畑は真っ赤に。ここで年長は全 員帽子を返すと赤い布が。誰も言わなく てもその景色を見てきた子どもたちはそ れが彼岸花であることを知っています。 年長の彼岸花を取り囲み、そしてクラス ごとの役割を終えていた、オレンジ黄色 ピンクがその輪の外側で手をつないで二 重円ができました。大団円です。

その二重円で曲に合わせて動き、無事

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会毎月1日午前6時30分から於:西宮公同教会集会室教会学校毎週日曜日午前9時から於:西宮公同教会礼拝堂聖日礼拝毎週日曜日午前10時45分から於:西宮公同教会集会室聖書研究祈祷会毎週第1・3水曜日午後7時から於:西宮公同教会集会室読書会毎週第2・4水曜日午後7時から於:西宮公同教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

に終わりました。

「こどもパレード」と名付けたそのプ ログラム、たくさんの反響がありました。 今までにもあっていいようなお話だった のに、でも今年こんな形で行われて最高 だった。全員で練習、そして予行演習な んてことはもちろんしませんでした。そ の時にその場の雰囲気も入れながら子ど もたちを誘導し、広げていくのです。は じめて目にした年長の頭のいちごに感激 していた3歳児。秋真っ盛りの今日この 頃、赤くなった木の葉を見ながら「しろ があかになったらいちごだよね」、運動会 での時間は心に残っているそんな3歳児。 「ぼくたちはひまわり」「わたしたちはさ くら」と自分たちの帽子の色で表現した ことが誇りのようで、今もその役割を演 じた、風景を表現したことが会話に出て くるようです。

公同で、いつも年齢を越えて遊んでいるから、年長は特に幼い子どもたちを思いやる姿がいっぱいある。年長はいつも「おれたち年長や」という意識を持っている、いちごの頃だって小さい子たちに摘んであげて先に食べている様子をいとおし気に見ていたり、最後にゆっくり自分たちは食べる。そんな日々が、そして畑がほんとに身近にあるから、だからそんな時間を物語としてみんなで生み出していくことができる。

そういう日常の様子を評価し、それが 運動会という場でさりげなく表現されて いること、プログラムがオープニングか らフィナーレまで自然な流れになっていることなどなどに至るまで丁寧にことばにしてくださった方もおられました。運動会だけではない、すべてに対しての整理されたおことばがうれしかったのでした。

細部に至るまで考え、構成したその一日。かって次のようなことをいつも思っていました。運動会の一日、その一日なの1年の子どもたちの日々の保障となる。遊んでいるように見えても、遊んでいるように見えてもが確かに育ってもと、歩ることと、先生の話をもみんなちることと、既ぶことすがあった。遊れの何歩もの成長があった。遊んでいることと、既ぶことすがあった。遊れの何歩ものがとても幼児期にだく、でもおり遊んで、その方とであることを心から理解していてできるので毎日を過ごすことができるのです。

それにしても年長の育ちには感心しました。「時間」というテーマで子どもたちと話をしました。春に桜が、夏にひまわりが~そんな様子を物語のようにして伝えていく中で、緑の帽子は春の芽吹き、色の広がりを表しているねというふうに進めていくと、「そこは~の組にやってもらうといいな」など、どんどん自分たちも話に加わってきます。その段階で「いけた」と思いました。前日に「明日の運動会でこのプログラムを、幼稚園のみんなでやるけれど年長さんがいてこそできることだからね」とお願いしました。そ

の日、見事に風景になりきり、少し心配した、しゃがんでいるので砂を触る子がと思ったことも恥ずかしいくらいに、運動場ではじめて創り出していくその時間をわかっているところは動き、オレンジやピンク、黄色の色の登場には目を輝かせて見入り、最後に全員で秋の畑の風景になって踊るのをリードしてくれました。

はじめて全員で、しかも練習というものをしない、わたしのことばでの動きを支えていく、そんな取り組み。さすがに朝はそう気合も入らず、ほんとに恐る恐るのオープニングでした。でも子どもたちを信じてのそのひとときを迎えました。自分自身の集大成のようなプログラムでした。



「こうぞう版行動報告書」

11月10日(金)から12日(日)の2 泊3日で山口に行ってきました。SLやま ぐち号に乗る旅をしてきました。今回は Tさんと2人旅でした。

まずは SL やまぐち号のチケットを取らない限り行けないので、1ヶ月前にお願いしてとってもらいそこからスタートです。そして宿泊先はかんぽの宿に連泊予定でしたが、2日目が取れず東横インに宿泊先を変更しました。東横インといえば、10年前不正改造問題でマスコミや障害者運動団体からバッシングを受けたことが有名です。あれから10年、改善されたかどうか確かめてみたく宿泊することにしました。

2 日目、今回のメインイベントである SL やまぐち号ですが、津和野側の5号車 に車いす席は2席設けられていますが、 床下に発電用ディーゼルエンジンを搭載 しているのでとにかくうるさいのです。 往路の湯田温泉から津和野は汽笛の音や 排煙の匂いなど感じることができました。 復路は気動車と変わらない感じでした。

3 日目はお土産(珍味類がほぼほぼだった)をたっぷり買い込み(笑)いい旅になりました。

(下平 浩三)

~ ♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから~

「アメリカでも奮闘しています」

11月第2、第3週は、子ども達の学校 が「カンファレンスウィーク」という週 に当たり、いつもお昼で終わって帰宅し てきていました。カンファレンスウィー クというのは、いわゆる担任の先生と親 との「二者面談」で、子ども達の成績や 態度、またどのようなところを直すべき かとか、そのような内容の懇談が行われ る週です。私の幼かった頃日本では、担 任の先生が一件一件子どもの家を訪ねて 回る家庭訪問というものがありましたが が、アメリカにはそのような習慣はあり ません。メールで第3希望までスケジュ ールを送り、先生がそれをスケジューリ ングして張り出し、親がその時間になっ たら学校に行きます。

先週が息子の懇談、今週が娘の懇談日でした。二人ともやはり英語の能力は 5 段階のうちの 3 で、よく努力はしているけれどもまだ完璧ではないといったコメントでした。家でまったく英語を使わないので、学校で過ごしている時間だけで英語を学んでいるのだと思うと、改めて、彼らはよく頑張っているのだなと思わされました。

3 年前に、娘がキンダガーテンに初めて入学した時には、このカンファレンスで話された話のほとんどが理解できませんでした。普段使う英語とは少し違った内容の話が英語でされることも理由の一

つでしたし、とにかく先生の早口の英語がほとんど聞き取れませんでした。翌年の娘が1年生に上がった時には、日本語ができる韓国人の方が助けてくださり、先生の通訳をしてくださいました。今はその方もお引越しされてしまったのでおられませんし、娘と息子が通う学校に日本人は他に一人もいませんので(日系人は数名おられます)、頼れる方がいません。今回は1年生の息子と3年生の娘の二人分の懇談ということで少し緊張もしましたが、なんとか先生のお話しされている内容を理解することが出来ました。

私の英語力は、本当に低く、アメリカ 生活 5 年目に突入しましたが、未だに英 語はほとんど話せません。片言の英語で 思いを伝えることはできますが、本当に 下手くそで、恥ずかしいレベルです。ア メリカに2年も滞在すれば英語がペラペ ラになるのだと思い込んでいましたが、 私自身ビザの関係で仕事を持つこともで きませんし、接点がほとんど日本人とな ると、日本語で話すことの方が多いです し、学校や買い物でもほとんど英語を使 う機会がありません。そうなると英語の 上達が著しく低く、日本にいた時よりも 度胸はついた、ということ以外は変わっ ていないのが現実です。ただ、耳は少し ずつ英語に慣れてきたのか、今回ほとん ど分からないのではないかと心配してい たカンファレンスの内容を理解できたこ とは少しホッとしました。

内容が分からなかった時のために先生 との面談中、録音をさせていただきまし た。「録音してもいいですか?」と聞くこ とができたことだけでも、以前よりは良 くなったなと思っています。というのは、 この国では自己主張をいかにしていくか ということが大切で、自分が思っている こと、してほしいと思うこと、嫌だと思 うことなどを相手に伝えることが必要で す。英語の上手い下手とは関係なく、相 手にいかに思いを伝えられるかというこ とはとても重要なことです。といっても、 やはり英語力がないと何も始まらないと いうことも事実です・・・。嫌なことが あっても、周りの話が全く分からなくて も、友達がいなくてもその世界に飛び込 んで、逃げ場のない中で必死で毎日を生 きてきた子どもたちをとても尊敬します。 (山本 知恵)



名護ぬ七曲(62) 沖縄の文化4 グスク時代の文化

こないだ仕事で宮古島市に行ってきました。 沖縄に6年以上居りながら今回が初めての宮古島。那覇空港から宮古空港までは飛行機で約1時間。乗ってしまえばすぐです。すぐなんだけど、名護からだとその前に高速バスで2時間かけて那覇空港まで行かないといけません。那覇から宮古島に行くより、名護から那覇に行く方が体力的にキツい。でもバス2時間より飛行機に乗る方が実はもっとイヤ。飛行機つてどうしてもちょっとね、いまだに恐いっていうか、命懸けではありますよね。

* * *

さて、前回までは長い貝塚時代の文化について見てまいりましたが、ここからいよいよグスク時代。グスク時代には沖縄でも農耕が始まります。狩猟・採取の暮らしから「栽培」に移行したということは、人口が増えたということのでもあると思います。どこからか水稲の技術を持った人が種子や苗と一緒に沖縄にやって来たのかもしれませんね▼当時の技術でどのくらい安定した糧食が得られたのか分かりませんけれども、集落の規模も貝塚時代より大きくなっていったはずです。この頃はまだヤンマーもヰセキもクボタ

教会の火曜日 10 時から 12 時 於:西宮公同教会集会室

第1火曜日 わいわいお茶会

第2火曜日 ゆっくりと聖書を読んでみませんか

第3火曜日 読書会

第4火曜日 社会のこと、世界のこと

もありません。植えるにしても刈るにし ても、すべては人手による作業。それに はある程度の「数」と「協力」がやっぱ り不可欠だわけです。私が子どもの頃は 既に"燃える男のヤンマー赤トラ"やヰセ キ農機の"さなえシリーズ"など優秀な農 業機械が存在していたのですが、それで も田植えや稲刈りの時期になると小学生 の私でも手伝いに駆り出されたものです。 泥んこ、蛭、おたまじゃくし、メダカ、 蛍、バッタ、蛙の合唱、台風、波打つ穂、 コンバイン(合体ロボみたいでカッコイ イ!と思っていた)、脱穀の臭い、藁の束 にダイブ、乾燥機のゴーっていう音、一 面のレンゲ畑...私が育った村はとてつも ない田舎だったけど、今思えば贅沢な環 境だったな~と思います▼話が横道に逸 れてしまいましたが、このグスク時代に は水稲に加えて麦や粟も栽培されていた ようです。それから牛も飼ってたそうで す。「複合農耕」と言うそうです。牛に犂 (すき)とか牽かせてたのでしょうか。 でも「本」(『ジュニア版 琉球・沖縄史』) によればその頃はまだ「鋤(すき)や鍬 (くわ) はもちいられていませんでした」 (23頁) とのことですから、もしかした ら犂もまだ無かったかもしれませんね。 単に荷物運び用だったのかな?▼沖縄で 飼育動物といえばやっぱり山羊? いつ 頃登場するのでしょうかね山羊は沖縄史 の中で。後から「食文化」のところで出 てくるかもしれませんね、お楽しみに! 豚も登場しますよねきっと▼鉄製農具と しては鎌とヘラぐらいしかなかったそう

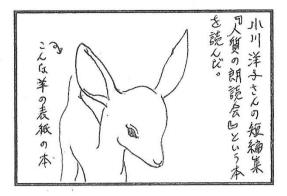
なのですが、ヘラって何に使うヘラのこ となんでしょうね? 穂を一本一本あれ するやつですかね、籾と茎を分離するや つ。面倒だけどそうやって一本一本丁寧 に脱穀してたのかもしれません。限られ た収穫だったので一粒も疎か出来なかっ たはずです。それにしても機械の無い時 代の稲扱き・籾摺り作業って考えただけ でも気が遠くなりそう。千歯扱きを発明 した人は農家の人にそうとう感謝された でしょうね。以前に書いたミュール紡績 機と同じぐらい凄い発明だったかもしれ ません▼農作業ってたださえ大変そうな のに、鉄や道具の少ない時代って何をや るにも本当に大変そう。筋肉痛になって もサロンパスの1枚だって無い時代です。 サロメチール(懐かしい)の発売までは まだ30世紀以上もあります。みんなどう やって筋肉痛やら肩凝りやら治しよった とでしょうかね?

* * *

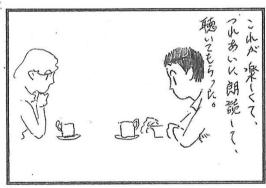
いろんな機械や道具が発明されて便利になったものの、飛行機だけは発明されて欲しくなかったな。こないだだってまたヘリコプター墜ちたし、やっぱり空を飛ぼうという発想自体無謀なんじゃないかな。無理があると思う。それから個人的に許せないのがパソコン。これは最悪の発明品だ。こうした製品のお陰で余計に仕事が増えてるような気がしてなりません。パソコンもスマホも機械のくせに、何て言うか近頃は労使の立場が完全に逆転してますよね。

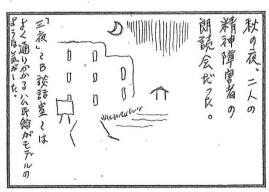
(羽柴 禎)

上人の夜

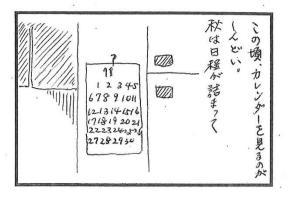




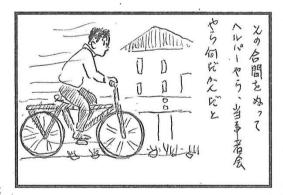




ある日の、ハルパー・ケンちゃん









NISHIKITA のクリスマス

~ボヘミアの森のクリスマス~ 2017年12月16日(土)



もちつき 15:30~、屋台 16:30~、コンサート 17:30~ 高松公園 (兵庫県立芸術文化センター前)

来年の佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 2018「魔弾の射手」(ウェーバー 作曲) にちなんだテーマでクリスマスを盛り上げよう!

もちつきでは、つきたてのお餅をお雑煮に。コンサートは、芸文センターエントランスにて、西宮公同幼稚園コーラス隊のお母さんが、歌声を披露してくださいます。

主催:西北活性化協議会(アクタ西宮振興会、にしきた商店街、兵庫県立芸術文化センター、阪急西宮ガーデンズ)

LALALA にしきたミュージシャンコンテスト グランプリプレミアムコンサート 2018年2月4日(日) 14:00~ プレラホール (阪急西宮北口駅南 徒歩3分)

2017年10月17日(火)に兵庫県立芸術文化センター中ホールにて行われた「LALALA にしきたミュージシャンコンテスト決戦」にて、グランプリを受賞された Coda del gatto さんのコンサートです。ゲストには、にしきた特別賞受賞者の木下徹さん、審査員特別賞受賞者の Saxophone Quartet Copain さんを迎えて開催します。

入場無料ですが、整理券が必要です。(配布は、12月予定)

主催:西北活性化協議会(アクタ西宮振興会、にしきた商店街、兵庫県立芸術文化センター、阪急西宮ガーデンズ)

≈为是动物。战机飞机≈

■「山城博治さん、稲葉博さん、添田充啓さん/裁判 闘争中間報告Ⅱ」をお勧めします。

2014 年 7 月から、名護市辺野古の新米軍基地始建設に反対する沖縄の人たちが、キャンプシュワブゲート前で座り込みを始めました。2016 年 7 月に、東村高江で新米軍ヘリパッドの建設も始まり、そこでも反対する人たちの座り込みが始まりました。座り込んでいる人たちを排除する機動隊員は、警視庁、神奈川、千葉、愛知、大阪、福岡県警などからも、動員されました。

座り込む人たちの中からは、逮捕・拘留される人たちが相次ぎました。そのほとんどは、1日、2日で釈放されていましたが、山城博治さん、稲葉 博さん、添田充啓さん、そして吉田 滋さんは、器物破損、公務執行妨害、傷害罪などで令状逮捕され、長期に拘留起訴されることになり、裁判が始まっています。

「中間報告Ⅱ」は、先の「Ⅰ」に続く、進行中の裁判の報告書です。

この報告書を是非手に取って、是非目を通していただきたいのは、例えば、日本で他のどの地域であっても、すべてにおいてあり得ない「事件」であり「裁判」であることです。

- 1、現地、現場の自治体、沖縄県・名護市が、反対の 意思を明確にしているのを踏みにじる基地建設 工事である。
- 2、1 にもかかわらず、強行されている基地建設に「非暴力」で「座り込む」人たちを手段を選ばず力づくで排除している。
- 3、排除に当たる機動隊員の車両を不法に長期に歩道 上に駐車させ、排除にあたる機動隊員を米軍基地 に自由に出入りさせている。
- 4、座り込んでいる人たちの逮捕・拘留、その長期拘留、及び起訴など「政治裁判」そのものである。

たぶん、こうして沖縄が強いられ、沖縄に強いている状況は、「中間報告書II」の「〈沖縄平和運動裁判〉と歴史のゆくえ」(森 宣雄)のまとめで書かれている言葉が、すべてを物語っているように思えます。「人権、民主主義は天から降ってくるものではなく、また強者たちによって守られるものでもない。しいたげられ打ちひしがれた者たちが生み出した、苦難の草の根で手渡しされる友愛によって育まれる。そして、海を渡り、国境をこえる」。

「中間報告書II」と合わせ「I」にも目を通してください。いずれも500円です。

■「松島朝義/琉球陶藝展 2017年」をお勧めします。

1~2月にアートガレーヂ、10~11月に沖縄県那覇市のデパートリウボウで開催された「松島朝義/琉球陶藝展 2017年」の作品と解説、記録、評伝・松島朝義をまとめた資料集が出来上がりました。沖縄の陶芸の歴史、沖縄の底力、沖縄の魅力に迫り、迫られる資料集です。沖縄に関心を持って見つめてきた人、沖縄が少し遠い人にとっても、沖縄が身近になる資料集です。およそ50ページ、頒価1,000円。

■ヤンバルクイナの「ストラップ」「バッヂ」をお勧め します。

ヤンバルクイナは、沖縄島の北の森(山原・ヤンバル)で、そこで生きる民衆の日常の生活の中で、生き続けてきた「飛ばない!」鳥です。「自分たちの分量だけを充足して生きることを楽しんでいる」「柔軟で、きめの細かい肌合い。素朴で、もろく、はかないようだが、強靭な」(「沖縄文化論」岡本太郎)沖縄の民衆の姿は、ヤンバルクイナの生きてきた姿です。ヤンバルクイナの「ストラップ(500円)」「バッヂ(300円)」の売上げは、辺野古・高江などで座り込む人たちの働きに使われます。

お勧めしている「報告書」や、「ヤンバルクイナ」(ストラップ、バッヂ)をご希望の方は、沖縄・名護/兵庫・西宮共同共生プロジェクトまで(電話0798-67-4691)。

(K)

まだ 11 月なりの寒さではあるのでしょうが、よく 冷えています。木々の葉っぱが色づいてきたので山に 行きたくなりますが、それはやめて父の畑へ行くこと に。移動の電車から六甲山を眺め、のんびりと。

この秋は雨の日が多く土の乾く暇がないのだと言いながら父が畑の一画を耕していました。5月頃のエンドウ豆や空豆をもう植えるらしい。

さっそく、ちょうど採れ始めている里芋を土の塊ごと掘り出してもらい、まるで芋の髭根のようにとび出ているミミズ達をそっと引っぱり出しながら粘土質の土を落として、きっとおいしいに違いない里芋とズイキ(茎)を頂戴した私。おいしいとこ取りとはこのことですね。ほかに、まだ少し酸っぱいキンカン、高値の今は殊更ありがたい青々とした小松菜(虫も食べてますが)など、彩り豊かな晩秋の一日となりました。

(Y)

3ヶ月の娘を連れて、地域の子育で支援センターに出かけています。市内の支援センターは6箇所あり、車で5分~20分で行けるので、あちこちの支援センターに顔を出しています。0歳~1歳6ヶ月までの小さいお友だちだけの日が月に何度かあり、ベビーマッサージや触れあい遊び、絵本の読み聞かせなどの時間に参加しました。5ヶ月以降の子ども達が多くて、娘はだいたいいつも一番幼いですが。

そして、歩いて 10 分の所には市立図書館があり、 隣には子ども図書館 "本の森" が今年の 4 月にオープ ンしました。絵本や図鑑などがたくさん、奥のじゅう たんの部屋には赤ちゃん向けの絵本があって、そこで は月に何度かおはなしの会が行われています。絵本や 紙芝居、パネルシアターなどをしてくれるので、これ からお散歩がてら行ってみたいなと思っています。

月末に更新される支援センターの予定表を見なが ら、来月はどこに行こうかな~と考えるのが楽しみで す♪

(C)

夜、ニュース番組を見ていたら、「アクティブラーニング」という学習法が紹介されていました。教室内でのグループ・ディスカッションや、ディベート、グループ・ワークなどで、自主的に学ぶ力をつける新たな教育法だそうです。映像を見ていたら、先生それぞれが工夫された授業内容で、クイズ形式であったり、数学では競争で答えを出し、全員が正解になるまで、友だち同士で相談してもよくて、テレビのクイズ番組かのような様子でした。子どもたちは、それはとても楽しそう。思い出しました。私の中学生の時の地理の先生。やはり、班ごとに競争で、答えを出すような授業内容で、黒板にも大きく色んなことを書いて、生徒もどんどん前に行き、空白に書き込んだりして、とっても楽しかったのです。それが身についたかというと、分かりませんが、その先生の授業だけは大好きでした。

高2の下の息子は、全部の授業が体育だったらいいのにという具合に、なかなかの勉強嫌いです。学校が嫌いな訳ではないのですが、小学校のころからか、ずっとそんな事を言っているので、このニュース番組を見ながら「アクティブラーニング」という言葉がいいのかは分かりませんが、一度、私の中学の時のあの先生のような授業を受けさせてあげたいな。とふと感じました。

「もぐらくん」がそこここに登場した4月からの幼稚園の日々。

まあ、どれほど世の中にもぐらがいるのかと思うほ どのもぐら攻勢。特製のもぐら帽子を被り、おまつり にはもぐらの衣装なんていうのも着せられた。それよ りなによりおまつりまでの1週間はカウントダウンと 称してのプレまつり。毎日日替わり演出で子どもたち を楽しませての時間、よく働いた。担当の役員さん日 く、「毎日、夜にすごく疲労感を感じた。なんでかな あと思ってよく考えたらカウントダウンで笑いすぎ たからだと思う」。おとなをも楽しませたということ ね。そう言えば当日のジャンケンゲームでわたしは 140 人と一人、最低 2, 3 回は勝負したと教えられ、 そりゃあガラガラ声になるはずだわ。140人も相手に したんだってと太鼓で盛り上げてくれた先生に言っ た。そりゃあ先生お疲れ様でしたとねぎらってくれる かと思ったら、えーっ、じゃあわたし 140 人も相手に 太鼓叩いたんですね。いやまあそうだけどさあ。そう それでジャンケン勝負の景品ももぐらくんのキャラ クターのチョコレートなど。これは運動会のおみやげ にとお願いして、懐かしの街チェコから届いたもの、 1998年12月にプラハで絵本の主人公のもぐらくんに 出会った時ほんとにうれしかったなあ。

そのもぐらくんがトイレに飾られていた時、その絵本が大好きだった長男がトイレから飛び出してきて「もぐらやないか」と言っていた。その長男、最初に誕生した子どものためにもぐらくんのぬいぐるみを買っていた。長い長い物語。

で、物語はまだ続く。この「もぐらとじどうしゃ」の絵本で 3 歳児の運動会のプログラムを作ったのが 2000 年のこと。今は福岡在住の先生、現在 3 歳児の クラス補助をしてくれている先生と 3 人で。長い話に しっかり聴き入っていた子どもたちに驚いていた若 い先生たち。もぐらの被り物に自動車にと全員に作ってくれたそしてそれに乗って家に帰ってその後買い物にも乗っていこうとしていたという子どもたちももう 21 歳くらい?その中の一人のおとうさんが突然、西宮に来たから少し寄っていこうと思ったと顔を見せてくださった。いやあ何と!

ところでなんだかんだと思いつき子どもたちを引っ張るわたしに「感服」とお褒めが。ありがとうございます。

(J)

(K)

カット (A・T)

政治・宗教思想研究会/関西神学塾

《今後の講義予定》

12月 1日(金)岩野祐介先生「内村鑑三(46)」

12月 8日(金) 手島勲矢先生「トーラー解釈(12)」

12月15日(金)森宣雄先生「日本と沖縄の民衆神学(5)」